

DPCコードの構成と意味

DPCでは、患者に割り振る14桁のDPCコードが4,955あります。このうち、4,296（支払分類数は2,462）のコード（診断群分類番号）に包括点数が設定されており、2018年3月20日付の官報で告示されています。

14桁のDPCコードには、下図のような意味があります。最初の6桁は傷病名に相当し、数字の代わりに「x」とある場合は「該当なし」を意味しています。

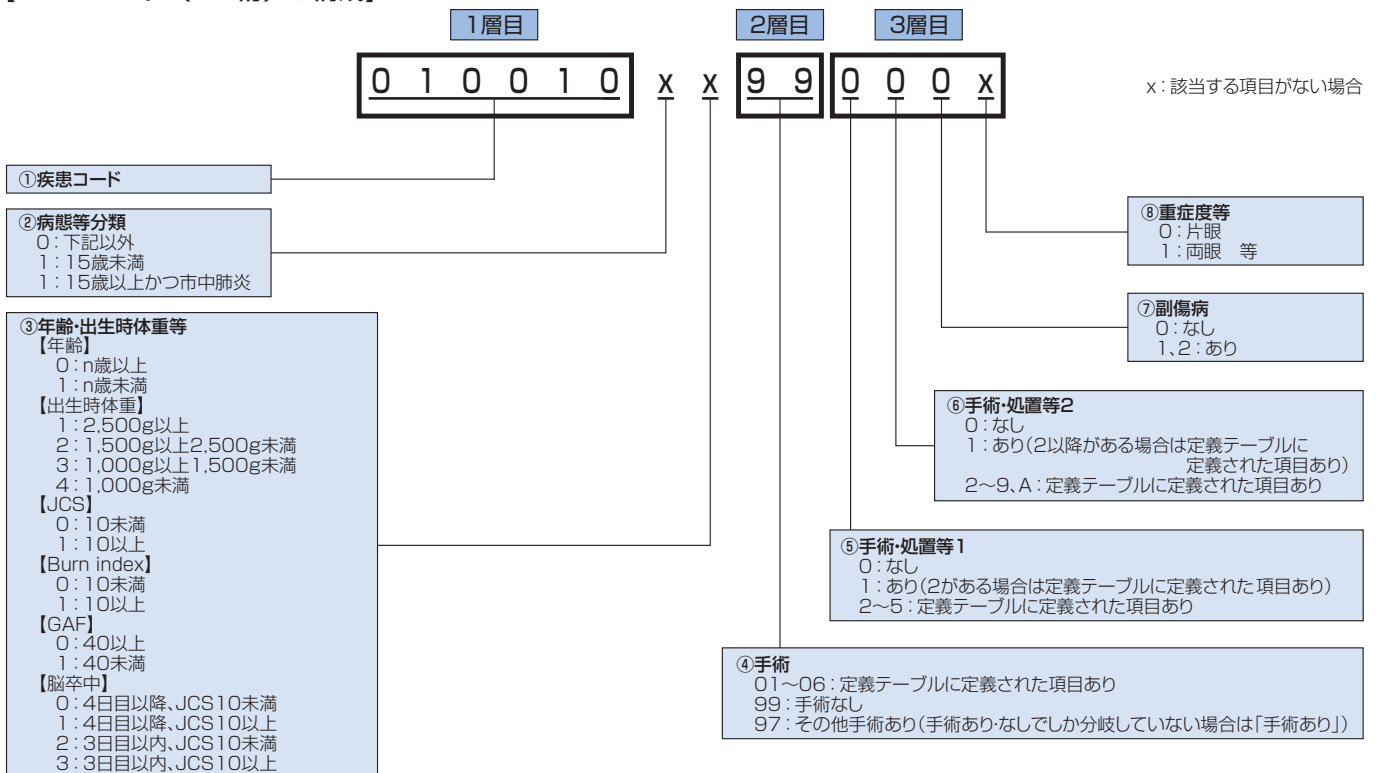
Q DPCコードの決定の際、「手術」の有無を判断するに当たって、輸血のみを実施した場合の取り扱いは？

A 輸血の費用は、医科点数表において第10部手術の第2節輸血料に定められています（13頁参照）。従って、輸血のみを実施した場合でも、「手術あり」として取り扱うことになります。ただし、輸血管理料のみを算定する場合には、「手術なし」を選択します。

Q 複数の疾患がある患者のDPCコードは？

A DPCコードの決定に当たっては、主治医が「1入院当たり医療資源を最も投入した傷病名」に基づき、1つだけ選択することになっています。従って、「主傷病名」と「入院の契機となった傷病名」「入院後に発症した合併症」が全て異なった場合であっても、1回の入院において1つのDPCコードしか選ぶことができません。例えば、「胃がん」全摘で入院した患者が「敗血症」になった場合、敗血症が医療資源を最も投入した傷病であれば、医療資源病名は「敗血症」となり、これに基づき、DPCコードを選択します。この選択（コーディング）によって、包括点数が大きく変動するため、DPCコードの決定を行う医師への支援も含めたコーディングのバックアップ体制をいかに整えるかが重要です。なお、適切な傷病名のコーディングを行うための参考資料として「DPC/PDPS傷病名コーディングテキスト」（19頁参照）が作成されています。

【DPCコード（14桁）の構成】



【1層目：傷病名の層】 上6桁コード（上2桁はMDCコード）
 【2層目：手術の層】 9・10桁目
 【3層目：その他】 残りのコード